オーガナイザーは、
今どこへ。

Photo courtesy of MBLWHOI Library

高校生物教職員のための

2015年10月3日～4日　理化学研究所CDB

発生生物学リカレント講座

高校生物教職員のための「発生生物学リカレント講座」2015

主催：理化学研究所多細胞システム形成研究センター、日本発生生物学会

高校の教職員が活き活きと生物の不思議を語り得ることは、将来の生命科学の発展、さらには我が国における科学学術文化の継承と発展に不可欠です。そこで、理化学研究所多細胞システム形成研究センター（理研 CDB）と日本発生生物学会（JSDB）は、高校における生物学教育の一層の充実を支援するため、生物教職員の皆さまを対象とした 2 日間の研修会「発生生物学リカレント講座」を開催いたします。是非ご参加下さい！

●プログラム

シュペーマンとマンゴールドがイモリの二次胚を誘導する胚の領域「オーガナイザー（形成体）」を発見して以来、今日に至るまでオーガナイザーは発生学の中心的な課題であり続けてきました。本講座では、アフリカツメガエル胚とニワトリ胚を用いて二次胚誘導を追体験すると共に、オーガナイザー研究の近年の発展について学びます。また、発生学の重要な研究材料であり、かつ有用な教材になり得るニワトリ胚について、その培養法や観察法を習得します。

●講師

八杉貞雄（首都大学東京名誉教授）、石井泰雄（京都産業大学助教）、猪股秀彦（理研 CDB チームリーダー）、薄井芳奈（兵庫県立須磨東高校教諭）

●スケジュール

10 月 3 日（土）10：00 ～ 17：30

午前　レクチャー（猪股）
「オーガナイザーの役割とパターン形成」
午後　実習（八杉、石井、猪股）
「アフリカツメガエル胚の二次胚誘導」
「ニワトリ胚の培養と活性炭標識」
「ニワトリ胚の二次胚誘導」

10 月 4 日（日）9：30 ～ 15：40

午前　実習（八杉、石井）
「ニワトリ二次胚誘導などの結果観察」
デモンストレーション（薄井）
「高校で実践するニワトリ・ウズラ胚の観察」
午後　実習（猪股）
「カエル二次胚誘導の結果観察」

●参加対象

高等学校等の生物学担当教職員で両日とも参加できる方。

●会場

理化学研究所 多細胞システム形成研究センター（神戸市中央区港島南町 2-2-3）
JR・阪急・阪神・地下鉄三宮からポートライナーで 12 分、医療センター駅下車、徒歩 4 分

●申込み方法

2015 年 9 月 24 日（木）までに下記のいずれかの方法でお申し込み下さい。抽選結果は登録した E メールアドレスに 9 月 25 日（金）にお知らせいたします。

① Web によるお申し込み：下記 URL の参加申込フォームよりお申し込み下さい。
http://www.cdb.riken.jp/recurrent/2015 ►►►